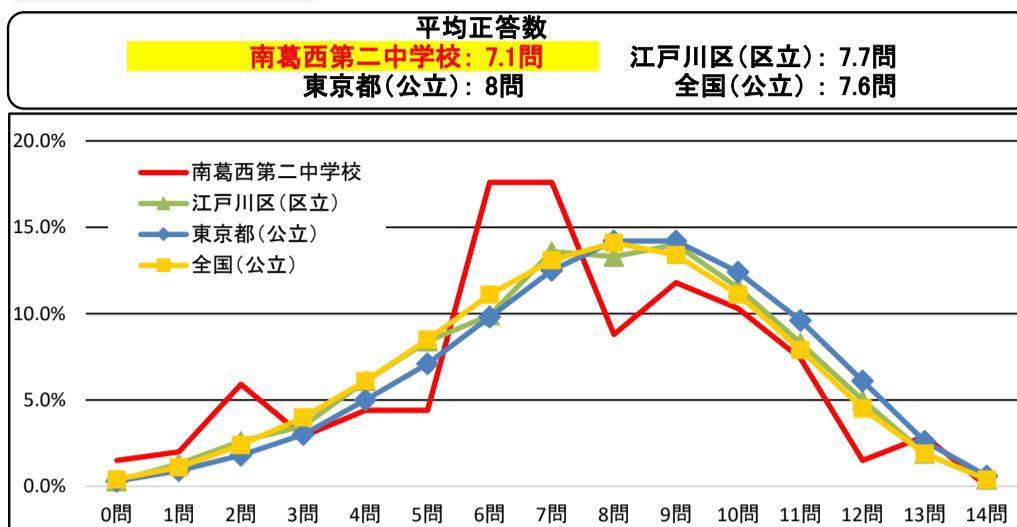
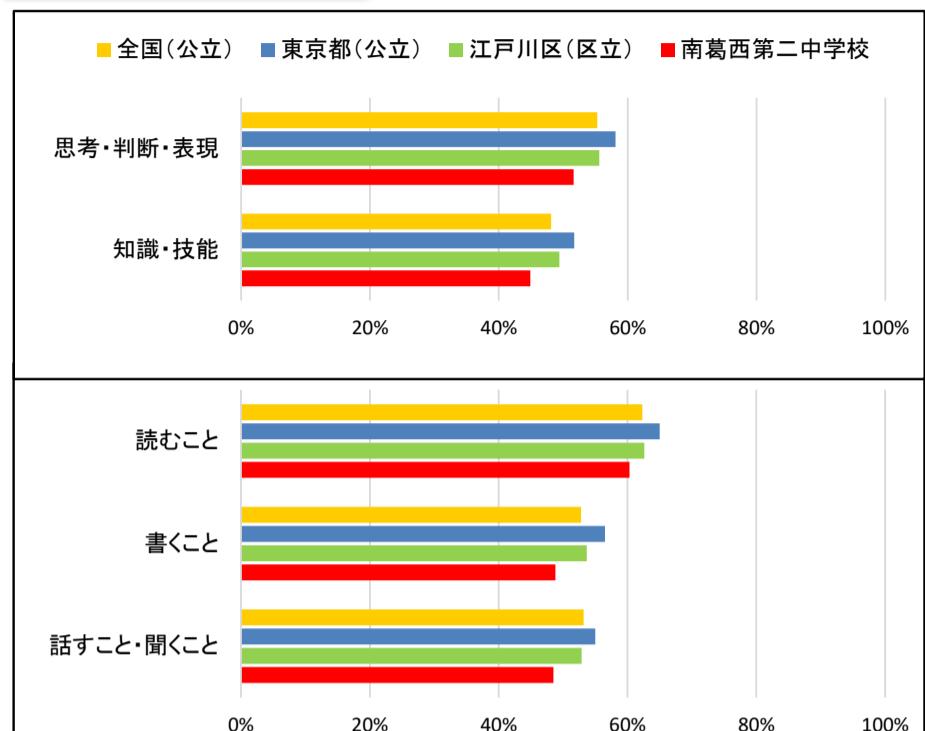


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】南葛西第二中学校

正答数分布



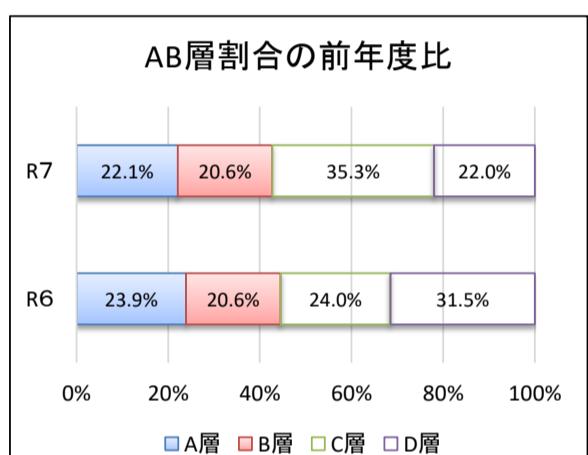
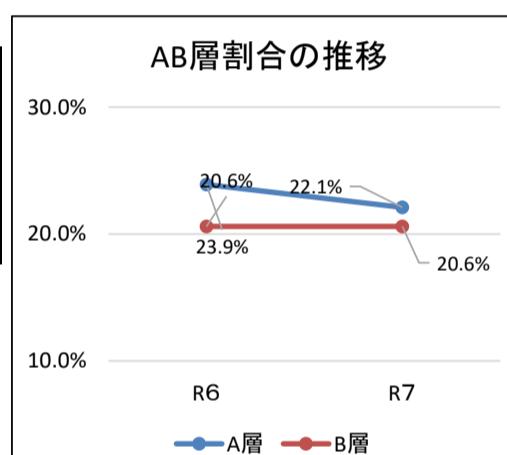
「領域別」の結果



四分位における割合 (都全体の四分位による)

国語	A層	B層	C層	D層
	10~14問	8~9問	6~7問	0~5問
南葛西第二中学校	22.1%	20.6%	35.3%	22.0%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

AB層の割合は全国平均を下回っている。また前年度の3学年と比較しても下回っているもののD層の割合は全国平均とほぼ変わらず、前年度の学年と比較すると大幅に少なくなっている。よって前年度よりもC層の割合が高くなっているので、C層をAB層に上げて割合を高める取り組みが急務である。生徒が抱える課題を明確にし、主体性をもって、取り組める教育活動を目指していく。

・教員の指導力向上

「国語の学習は将来、社会に出たときに役に立つ」と考える生徒の割合が多いが、「国語への関心」が低いことを鑑みて、より主体的に学ぶ意欲や関心を育むために、「ICTを活用した授業」や「効果的な対話活動の工夫」などに重点を置いた教育活動を展開していくよう務める。

・基礎学力の保障

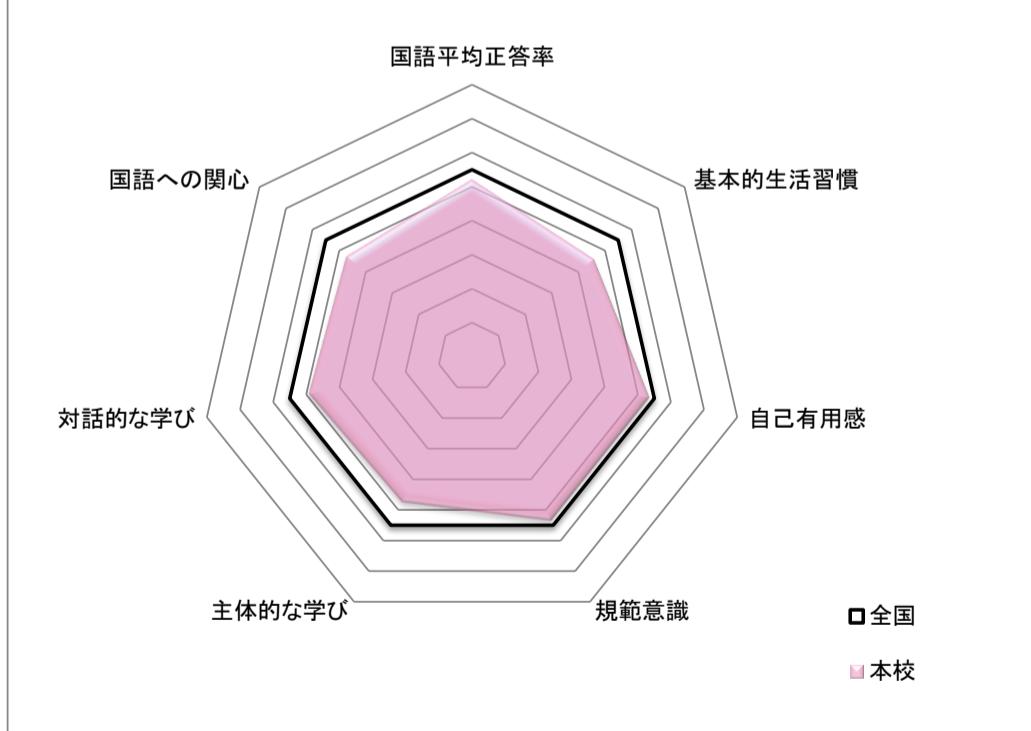
学習課題(漢字の読み書き・意味調べを含む短文づくり・論理的思考を養うための短文づくりなど)を通して基礎学力の定着を図る。また、定着の度合いをはかるために漢字の小テスト等を週一回程度実施する。

・学習習慣の確立

学年として家庭学習ノート励行し、週テストも並行して実施している。国語の授業においては学習課題(漢字の読み書き・意味調べを含む短文づくり・論理的思考を養うための短文づくりなど)を出し、並行して週一回の漢字の小テストも実施していく。

・AB層の育成

単元のまとめに、思考力・判断力・表現力を養うための「書くこと」の評価機会を設け、完成した評価材をもとにプレゼン等の発表活動をとおして発展的な力の育成を目指す。



《チャートの特徴》

本校では、肯定的回答回答がすべての領域で全国平均を下回っている。しかし、自身の生き方や他者との関わりの数値を示す「自己有用感」や「規範意識」については、全国平均に近い数値の肯定的回答回答を読み取ることができる。それに対して、「基本的生活習慣」が最も大きく全国平均の数値を下回っている。また、学びへの関心および学習成果についても大きく下回る結果となっている。

《家庭・地域への働きかけ》

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「朝食を毎日食べていますか」の質問に対しての肯定的回答が全国平均を大きく下回っている。学びに対する関心・意欲を高め、毎日の家庭学習の習慣を確保するために、まず「基本的生活習慣」の改善の働きかけをする。基礎学力定着を図るために家庭でミライシードを活用するよう励行する。以上のことを学校だよりや学年だより・保護者会・三者面談等で説明していく。